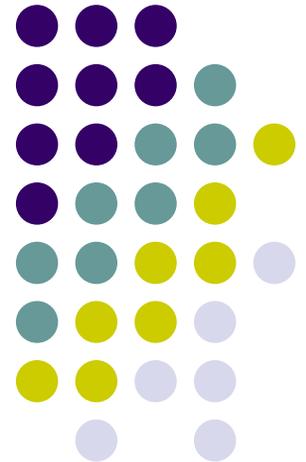
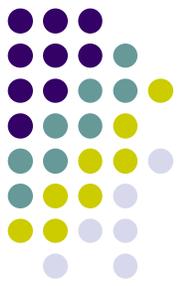


シティズンシップ教育と まちづくり

水山光春(京都教育大学)

mizuyama@kyokyo-u.ac.jp



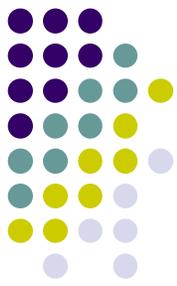


シティズンシップ教育とは何か

- 英国ナショナルカリキュラムの定義

「シティズンシップは効果的で民主的な参加のために求められる知識と技能を身につけることを促す。それは、子どもたちがコミュニティやより広い世界において、協働し、行動し、変化を生じさせようとするための、自信や信念を持った、見識ある批判的で活動的な市民になることを促進する。」

Qualifications and Curriculum Authority (2007) *Citizenship Programme of study for key stage 3 and attainment target*, www.qca.org.uk/curriculum



クリック報告に示されたシティズンシップのねらい

- 公立・私立中等学校におけるシティズンシップの目的は、以下の通りである。
 - **参加型民主主義の本質や実行**についての知識や技能や価値を確実なものにし、かつ増大させる。
 - 子ども達が活動的な市民に成長するのに必要な、**権利と義務、責任の感覚への気づき**を向上させる。
 - 上記のことを通して、個人や学校、社会に対する**ローカルかつより広い共同体レベルでの参加**の価値を確立させる。

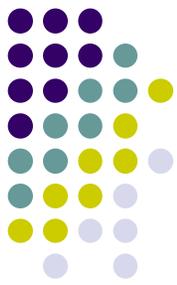
DFEE/QCA(1998) *Education for citizenship and the teaching of democracy in schools*: Final report of the Advisory Group on Citizenship, p.40.



シティズンシップ教育の三つの柱

<p>社会的道徳的 責任</p>	<p>こどもたちの、非常に若い段階からの、学級の内外や公共機関の中での行動やお互いどうしに向けての、自己への信頼と社会的道徳的に責任ある行動についての学び。（市民性のための本質的な準備状態）</p>
<p>地域社会への 関わり</p>	<p>こどもたちの、地域社会への参加と奉仕を通しての学びを含む、地域社会での生活と地域社会の重大事についての学びと、それらへの有益な関わり</p>
<p>政治的 リテラシー</p>	<p>こどもたちの、知識と技能と価値を通じた、公共生活及びそこで自分自身を有益たらしめる方法についての学び。</p>

KS3・KS4においてシティズンシップ が目ざす鍵概念と学習プロセス



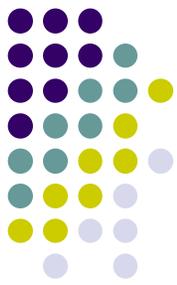
1 鍵概念

- 民主主義と正義
- 権利と責任
- アイデンティティと多様性(イギリスでともに生きる)

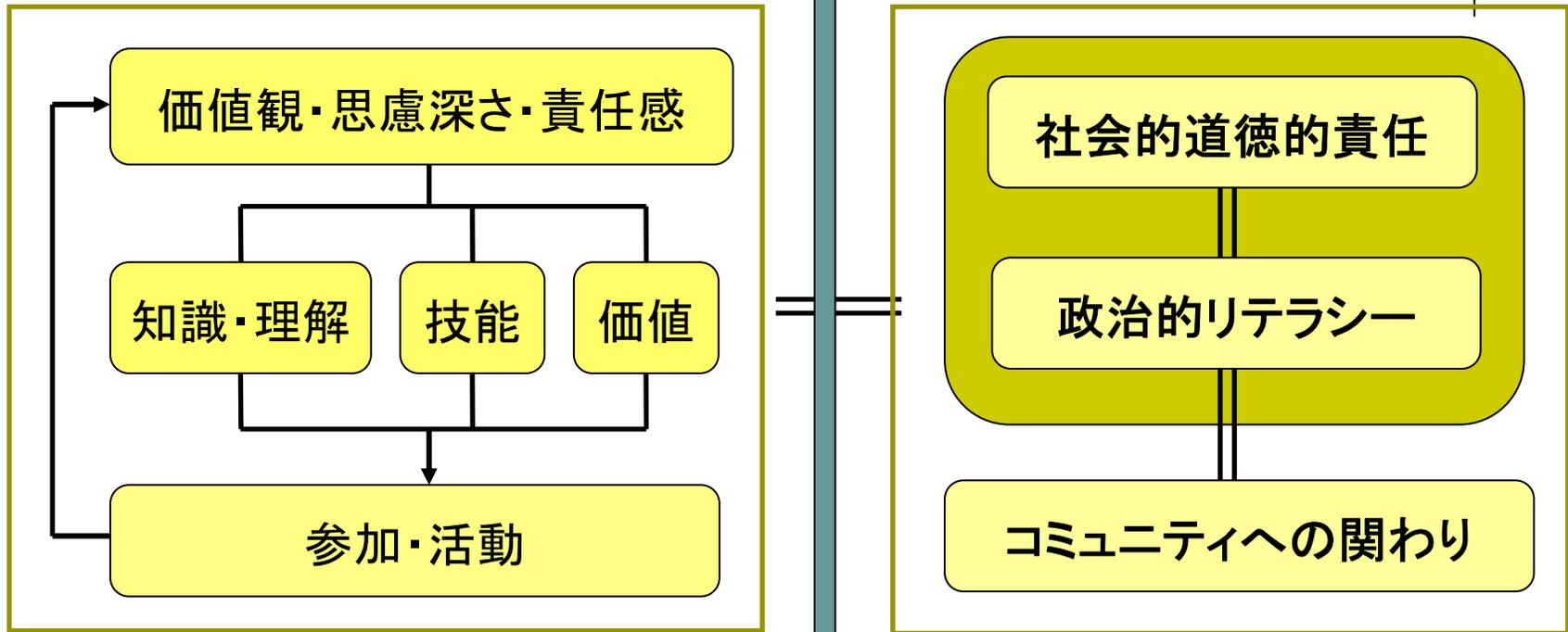
2 鍵となる学習のプロセス

- 批判的思考と探究
- 支持と表明
- 思慮深く責任ある活動

シティズンシップ教育の構造



知的市民性



活動的市民性

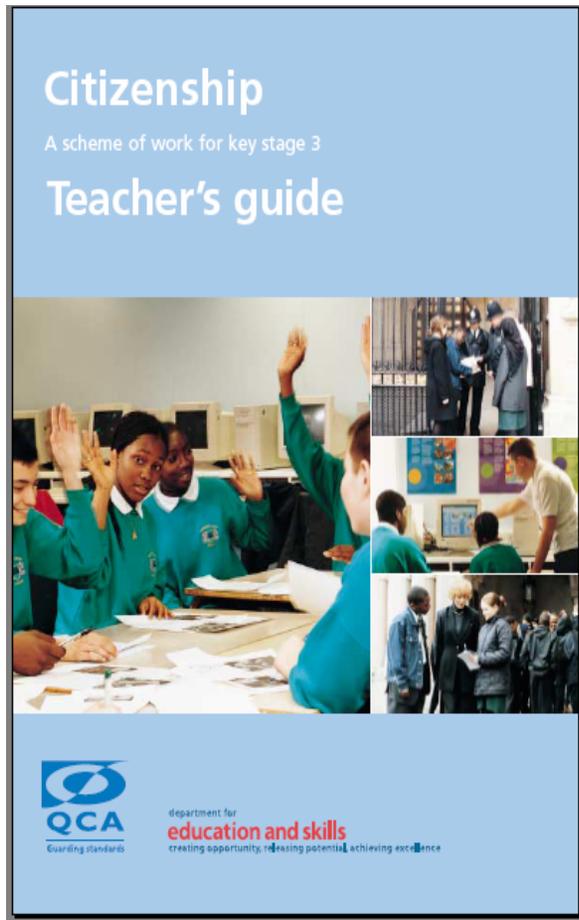
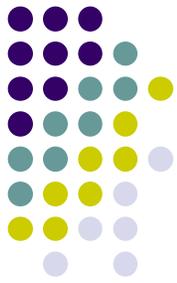
社会的有能感

コミュニティへのアプローチを 「まちづくり」から分析する視点



観点	内訳, (鍵概念)など		
内容 (概念)	空間	ローカル, ナショナル, グローバル	
	領域	文化 ... 多様性とアイデンティティ, 共生, 包摂	
		政治・経済 ... 権利と責任, 民主主義と正義, 参加, 効率, 社会的余剰	
	工学・技術 ... 技術革新, 社会資本, STS,		
方法 (過程)	Plan	構想	批判的思考と探究 支持と表明 思慮深く責任ある活動
	Do	記述・記録, 要約・分析, 解釈・説明, 議論・討論, 表現・論述	
	Check	評価	
	Action	実践	
主体	個人, ペア, グループ, クラス全体		

シティズンシップ・スキーム・オブ・ワーク (教師用指導書)

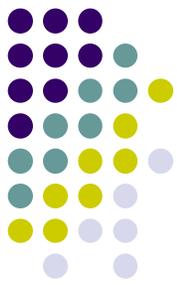


QCA/DfES(2004) *Citizenship
Scheme of Work for Key Stage 3,
Teacher's guide*

KS3 スキーム・オブ・ワークの単元構成



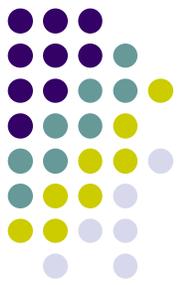
1. 導入単元：シティズンシップー体全体それは何？	
固有のものとして学ぶ	2. 犯罪, 3.人権, 4.連合王国ー多様な社会
	5.法はいかに動物を守るかーローカルからグローバルな学習
	6.政府, 選挙, 投票, 7.ローカルな民主主義
	8.ローカルな地域におけるレジャーとスポーツ
	9.社会におけるメディアの重要性
他の教科を通して学ぶ	地理 10.グローバルな問題のディベート
	歴史 11.今日, 世界平和を保つことはなぜ難しいのか 12.英国の女性達は選挙権獲得のためになぜ闘ったか
より広いカリキュラムを通して学ぶ	14.民主的な参加の技能の発展
	15.犯罪と安全への気づき, 16.人権：学校全体での活動
	17.学校同士のつながり
	18.校庭の開発
19.KS3終了時点での評価	
20.大衆の関心の中に何があるか	
21.人々と環境	



第18單元 第1節

あなたは校庭に関して、学校とコミュニティの必要性をどのように確立することができるか？

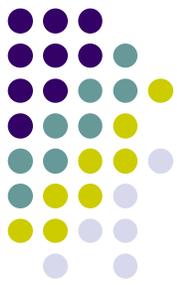
- 校庭の実際的な調査を引き受ける。
- 木・ベンチ・歩道・ゲームのためのコートやピッチのような場所の配置を示した地図を、それらの状態に配慮しながら作り上げる。
- 校庭が現在、1日の様々な時間にどのように使われているかを観察し、記録する(例:学校が始まる前, 休み時間・授業中・放課後)



第18単元 第2節

あなたは校庭に対する優先度をどのように決定するか？

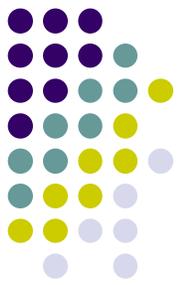
- グラウンドを使う他の人々のさまざまなニーズを考え、これらの考えを発表する。
- 自分たちが集めた情報を分析する。
- 校庭改善リストに含めるべきものとそうでないものについての決定をするために、どのような方法が使われうるかを考える。(例:だれが計画の運営に参加するのか, どのような決定がだれによってとられるのか)
- この意思決定を形成するシステムに同意する。



第18単元 第3節

あなたは校庭を使っている人々の必要性をどのようにして知ることができるか？

- 校庭の実際的特徴か、それともそれらの使われた方のどちらが、異なる文化と民族的アイデンティティの機会を与えるかを討論する。
- その計画の持続可能性について、考える。(校庭の維持にはどのような参加が必要か？将来だれが参加するか？計画はどのようにモニターされるべきか)
- さまざまな活動がグラウンドのどこでなされるのかを示した計画を作る。
- ローカルコミュニティやボランティアグループや個人を招待する。(例: 野生生物の生息地を作り出すのを助けている野生動物保護団体)



第18單元 第4節

校庭の開発を計画し，変化させる。

- 専門家の援助を組み込みつつ，校庭の外見や管理の変化への参加の仕方を考える。(例：休み時間やランチタイムでの使われ方の変更，木を植える，東屋を建てるなど)
- その計画の様々な側面のコストを調査し，予算と比べる。
- 資金を探し，資金を得るイベントや活動を計画し，組織する。
- 計画の過程や完成後，校庭開発計画への自分自身やグループの貢献を振り返る。何がうまくいき，何がもっとうまくなされるべきであったかを考える。
- その計画の社会的，文化的，環境的影響がモニターされうる方法を考える。

第18單元「学校の校庭を開発する」の検討



(1) 内容(領域)の配置

	文化	政治・経済	工学・技術
あなたは校庭に関して, 学校とコミュニティの必要性をどのように確立することができるか?			
あなたは校庭に対する優先度をどのように決定するか?	○	○政治	
あなたは校庭を使っている人々の必要性をどのようにして知ることができるか?	○	○政治	
校庭の開発を計画し, 変化させる.		○政治 ○経済	○



(2) 学習方法(場面)の出現回数

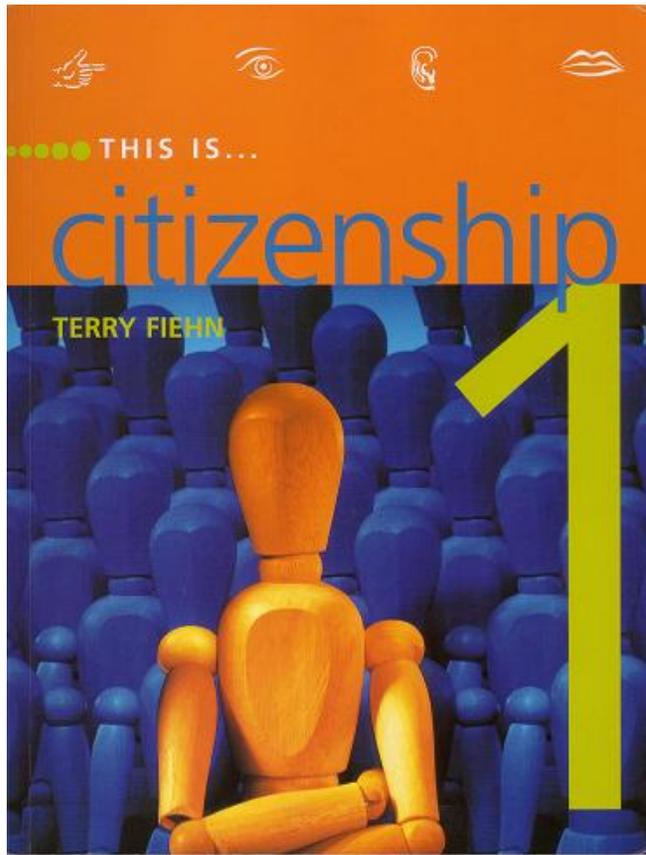
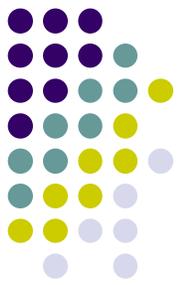
	Plan	Do					Check	Action
	構想	記述・ 記録	要約・ 分析	解釈・ 説明	表現・ 論述	議論・ 討論	評価	実践
第1節 (/3)		2				1		
第2節 (/3)			1	3	2	2		
第3節 (/5)	1	1	1		1	2	1	
第4節 (/3)	1	1	1	1			2	2
出現数(14)	2	4	3	4	3	5	3	2

- PDCAにあてはめると、活動は構想から実践までまんべんなく存在する。
- 比較的、議論の数が多いことが特筆される

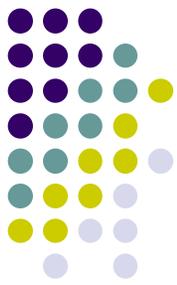
(3) 学習方法(場面)の出現回数

- 活動グループに関する指示は特にない。

テキスト「This is Citizenship 1」



	第1章	第2章	第3章
標 題	ルールと 公正,権利 と責任	コミュニテ ィとアイデ ンティティ	グローバル 市民になる
鍵 概 念	ルール,公 正, 権利, 責任	アイデンテ ィティ, コミ ュニティ, 文化, 参加	グローバル 相互依存, フ ェアトレード, チャリティ

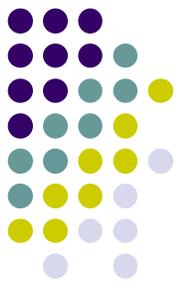


「This is Citizenship 1」の章立て(2)

第2章

コミュニティとアイデンティティ

- 2.1 コミュニティに所属する
- 2.2 アイデンティティ
- 2.3 コミュニティで一緒に暮らす
- 2.4 あなたの町の中心市街地をどのように変えたいですか
【調査のスキルを磨く】
- 2.5 あなたは良い市民，もしくは能動的な市民ですか
- 2.6 あなたは何かを変えられますか
- 2.7 私たちのコミュニティを持続可能にするにはどのようにすれば良いのでしょうか
- 2.8 コミュニティをまとめる
【振り返り】



2-6 あなたは何かを変えられますか

取り得る選択肢(あなたに何ができるか?)

- 地方自治体に電話をかけて責任者に話す。
- 地方自治体に苦情の手紙を書く。
- 地方議員に会いに行く。地方議員は一般的に陳情窓口を持っている。
- 嘆願書をしたため、地方自治体に送る。
- 地方自治体が何ら返答をしなかったら、地方新聞に投書する。
- 問題に関わってのデモや行進を組織する。地方紙の記者を招待したり、地方議員を招く。
- 平和的だが破壊的な行動をする。例えば、道路への座り込み、家や地域の占拠など。

2-6 あなたは何かを変えられますか アクションプランを作る



論点を確認する

何が悪くて変化を必要としているか

	行動	意見
調査を遂行する <ul style="list-style-type: none">・どんな情報が必要か・どこで情報を得ることができるか・この論点について他の人たちがどのように考えているか、どのようにすれば知ることができるか・事態はどのように改善できるか		
行動を計画し遂行する <ul style="list-style-type: none">・どのような行動が取り得るか・誰が助けてくれるか・誰がいっしょに働いてくれるか・どのような行動を完遂しようか		
行動を振り返る <ul style="list-style-type: none">・何がうまくいったか・何がうまくいかなかったか・我々が成し遂げなければならなかったことは何か・行動は成功したか		



テキスト「This is Citizenship1」の検討

(1) 内容(領域)の配置

	文化	政治経済	工学・技術
2.1 コミュニティに所属する	○		
2.2 アイデンティティ	○		
2.3 コミュニティで一緒に暮らす	○	○	
2.4 あなたの町の中心市街地をどのように変えたいか？	○	○	○
2.5 あなたは「良い市民」、それとも「能動的な市民」？	○	○	
2.6 あなたは何かを変えられますか？		○	○
2.7 私たちのコミュニティを持続可能にするにはどのようにすれば良いか？		○(政治) ●(経済)	○
2.8 コミュニティをまとめる(まとめ)			

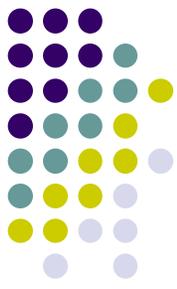


(2) 学習方法(場面)の出現回数

	Plan	Do					Check	Action
	構想	記述・ 記録	要約・ 分析	解釈・ 説明	表現・ 論述	議論・ 討論	評価	実践
出現数(39)	2	6	9	6	8	6	2	2

(3) 学習主体(形態)の出現回数

	個人	ペア	グループ	クラス全体
出現数 (39)	7	9	14	11



スキーム・オブ・ワーク「校庭の開発」と テキスト「This is Citizenship 1」における コミュニティの扱いの共通性

小括

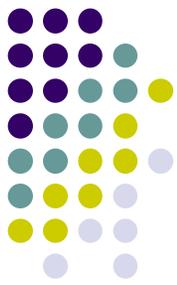
(1) 内容

- 様々な**文化**的背景を持った人々の要求と必要
- 要求と必要の調整としての**政治**
- 政治の実現の舞台としての**工学・技術**, (手段としての**経済**)

(2) 基本的学習方法

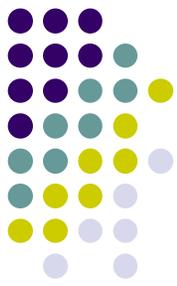
- テキスト2-6「能動的な市民になる」の「アクションプラン」
論点を確認する, 調査を遂行する, 行動を計画し遂行する, 行動を振り返る

学校とNGOとの協働によるシティズンシップ



1. 主体 Institute for Citizenship (IfC)
2. プロジェクト シティズンシップを通じた民主主義
(Democracy through Citizenship)
3. 作業定義としての活動的市民 (Active citizenship)
 - 自分の意見を持つ.
 - クラスや学校, 近隣, 市, 国といったコミュニティのあるべき姿について決定を下す.
 - 地域社会 (community) に参加する.
 - 変化をおこす.
 - 政治的なプロセスに参加するようになる





「シティズンシップを通じた民主主義」の取り組み

- 自治体職員と協働による自治体をよく知るための資料づくり
- 若者の欲求調査と若者向けプロジェクトの評価
- 地方自治体の「区」予算執行に関する意思決定への参加
- ヨーク若者議会から英国若者国会への2名の議員の選出
- ヨーク地区国会議員を招いた「クエスチョンタイム」の運営
- 教育委員会との協働による公共施設での学校紹介展示

[Home](#) | [Education](#) | [Europe](#) | [Democracy through Citizenship](#) | [Resources](#) | [Speak Out!](#) | [Press](#) | [About Us](#) | [Discussion Forum](#) |
[Teaching Active Citizenship](#) | [Links](#) | [Site Map](#)



INSTITUTE FOR CITIZENSHIP

[Democracy and Life Skills](#)

[Schools Question Time Challenge 2007](#)

[A Vision of Europe](#)

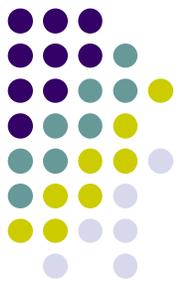
[Get The Vote Out Resource Pack!](#)

[Donations](#)



Tackling Apathy
Stimulating Debate
Promoting Awareness
Supporting Education
Encouraging Active Citizenship





まとめ

- 学びの内容としては日本で行われているものと大差はない。
- 比較的明瞭な違いは2つ
 - 基本概念を押さえつつも、活動的で、認識・理解と活動がセットになっていること、
 - 「権利や義務」の理解・認識と道徳的な「責任」がセットになっていること
- コミュニティは多様にとらえられている。「まち(づくり)」は事象であり、「文化」「政治・経済」「工学・技術」の結節点。
- 文化・政治/経済, 工学/技術を総合的に考察することで、より豊かなシティズンシップ学習になる。